

僕と友人たちの創造力と才知が
既成の枠を壊していく——

MB&F

Maximilian Büsser

マキシミリアン・ブッサー

MB&Fの創業者兼CEO。1967年、スイス・ローザンヌ生まれ。約7年間ジャガー・ルクルトに在籍。その後、ハリー・ウィンストンのマネジングディレクターとしてオーバスプロジェクトを立ち上げる。2005年にMB&F設立。

秋田大輔:写真 古川直昌(本誌):文
Photographs by Daisuke Akita Text by Naomasa Furukawa (Chronos-Japan)

シンガポールで開催されたテンパスにおいて、マキシミリアン・ブッサー氏は自らのプライベートブランドMB&Fの2作目となる「オロロジカルマシオンNo.2」のムーブメントを披露した。ハリー・ウィンストンの「オーバスプロジェクト」で尖鋭的な独立時計師の才知に感化された彼は、同社を辞し、「既存の時計を破壊するようなラジカルな創造」を具現化してくれる「友人たち」とともに、共同作業で1本のタイムピースを作るユニークなプロジェクトMB&Fを立ち上げた。2006年に発表された「オロロジカルマシ



「1」は腕時計型のケースにセンタートゥールビヨン、時分表示をセパレートしたふたつの文字盤というストレージ極まりない作風であった。さて、待望の2作目は……。

「2作目は、1作目とまるで異なるアプローチの作品になります。そして今回の友人は、特異なファンクションの開発で名を成した、あるサプライヤーのオーナーです。彼の会社は今まで、フランク・ミュラーやヴァンクリーフ&アーベル、ブランパン、そしてハリー・ウィンストンといった著名なメゾンに、20年近くにわたって特殊モジュールを提供しています。しかし、今、ちよつと頭を痛めているんですよ」

ブッサー氏のプロジェクトは簡潔にして明瞭だ。自身の仕事に携わった人物の名前だけでなく、顔写真まですべて公表する。しかし、「オロロジカルマシオンNo.2」のモジュールを設計したこの友人は、自身の顔はおろか、名前すら公表されるのを頑なに拒んでいるというのだ。

彼にこの話を聞いたのは9月初旬。そして今、この原稿を書いている11月



オロロジカルマシオンNo.2に搭載されるムーブメント。左右にふたつの文字盤を備えるイレギュラーなスタイルゆえ、ムーブメントのシェイプも異形。左右対になっているディスク上に文字盤が載る。向かって右側には複雑なレトログランド関連のパーツが確認できる。詳細は実際のプロダクトを紹介している79ページをご覧ください。

1日。あるウェブサイトに上には、その人物の顔写真と名前がしっかりと公表されている。その人物の名はジャン・マルク・ウイダーレキド氏。レトログランドとジャンピングアワーのモジュール作りで名を馳せる、ジュネーブのアジェノール社のオーナーである。彼とブッサー氏は旧知の間柄。陰の存在であるサプライヤーの美学は、粘り強きネゴシエーターによって、その名が白日のもとにさらされただけでなく、かつて敵対関係にあった別のサプライヤーと共同作業をするまでに至る。

毎年、1本のスパンでオロロジカルマシオンを発表していきたいと語るブッサー氏。実際、No.3の設計はすでに終了しており、No.4、5のアイデアはもちろん、デザイン、そして友人も決まっているが、肝心の資金繰りに苦慮しているという。

「仕方ありません。僕はエスタブリッシュされたメゾンから離れて好きなことをやっているわけですから」

こんな男に「友人として仕事をしよう」と持ちかけられて心が動かない時計師はいないだろう。

ついにケーシングされた 第2のオロジカルマシーン

詳しいスペックシートはおろか、基本的な仕様さえ不明のまま、ムーブメントだけが公表されていたMB & F第2の作品。憶測を呼んだ「ラジカル」な心臓部に秘められた意図が明らかとなった。

Photographs by Masanori Yoshie
Text by Hiroyuki Suzuki(Chronos-Japan)

MB & Fの2作目となる「オロジカルマシーンNo.2 (以下、HM2)」は、これまでムーブメントの画像だけが公開されていた。しかしそれを見ただけでは、マキシミリアン・ブツァー氏とその「友人」たちの意図を読み解くことは叶わない。ベースムーブメントに載せられたモジュールは、まるでSF映画に登場する宇宙船の翼のようにしか見えなかったからだ。しかしついに、ラジカル極まりないこの心臓部がパッケージを得た。

HM2に与えられた意匠は、一見すると端正なレクタングル。しかしバックケースのトランスバレント部を支えるように設けられた4本の足と、ボルト&ナットのディテールは、ストレートに「建造物」を意識させる。「最初はモジュールも四角いプレートを使っていました。しかしバックケースのアーキテクトが決まるにしたがい、ムー

ブメントも意匠に沿った表現を求めました。3次元的な造形美まで備えたタイムピースだけを、コンテンポラリーアートと呼ぶのです」とブツァー氏が語るように、あの「翼」もケース造形との連携によって生まれたものだ。

この「アート」の機構開発に尽力したキーパーソンは、アジェノー社のジャン-マルク・ウイダーレキド氏。複雑なレトログラードに定評のある氏は、左のダイヤルにレトログラード・デイトと双球状のムーンフェイス、右にジャンピングアワーと、同軸のレトログラードミニッツを与えた。さらに非対称形とされた歯のひとつひとつに切れ込みを入れた4枚の特殊な歯車でバックラッシュを吸収し、許容誤差ゼロという歯車の噛み合いも実現。これもHM2が単なるストレンジピースではなく、ていねいに「練られた」コンセプトから生まれたことを示す、ひとつの凡例だろう。



MB & F
オロジカルマシーン No.2

レクタングルとなったMB & Fの第2作目。バックケースを特徴付ける4本の足が、非常にラジカルなムーブメントデザインを導いた。No.1とはまったく異なる意匠だが、並べてみると兄弟機であると分かる。自動巻き。18KPG×Ti(縦38×横58mm、厚さ13mm)。予価770万円。(問)アワーグラス銀座店 ☎03-5537-7888

